

北海道支部

2024年

☆6月22日（土）第204回研究談話会（藤女子大学）
 題目：「トラウマから平和語りへ『ヒロシマ』のなか
 の近藤紘子」
 発表：野村幸輝（旭川市立大学）
 司会：岡崎 清（札幌学院大学）
 ＊終了後、総会

☆12月21日（土）第34回日本アメリカ文学会北海道支
 部大会（藤女子大学・対面およびZoomによるハイ
 ブリッド開催）
 ワークショップ
 タイトル：「映画から読む *The Color Purple*」
 司会・講師：岡本晃幸（藤女子大学）
 ディスカッション：松井 美穂（札幌市立大学）
 セミナー
 タイトル：「翻訳を継承し創造する」
 司会：本城誠二（北海学園大学名誉教授）
 講師：本村浩二（駒澤大学）「*Delta Wedding* の翻訳
 を自己点検する」
 宮澤優樹（金沢大学）「寒さを翻訳する：ウォ
 ートンの『イーサン・フロム』における語り
 について」

2025年

☆3月31日 『北海道アメリカ文学』第41号発行

【特集】「翻訳を継承し創造する」

はしがき	本城誠二
「 <i>Delta Wedding</i> の再翻訳をめぐる所見」	本村浩二
「寒さを翻訳する：ウォートンの『イーサン・フロム』 における語りについて」	宮澤優樹

【研究論文】

「仮面を着脱する「黒人」に遭遇する白人少年——「黒
 人」表象が浮き彫りにするヘミングウェイの複眼的
 人種意識」 本荘忠大
 「「二人はひとつ」——ヘミングウェイの “Cross-
 Country Snow” における結婚の理想と葛藤」
 中野志帆

【新刊書紹介】

研究書

中央大学人文科学研究所編『ローカリティのダイナ
 ミズム 連動するアメリカ作家・表現者たち』所収
 ○本村浩二著
 「ケージとサークル——シヨパン、ウェルティ、そ
 してリージョナル文学」 松井美穂

翻訳書

○本村浩二訳 ユードラ・ウェルティ著 『デルタ・ウエディング』	島貫香代子
○宮澤優樹訳 イーディス・ウォートン著 『イーサン・フロム』	竹内康浩
○藤井 光訳 リファト・アルアライール編 『物語ることの反撃：パレスチナ・ガザ作品集』	本城誠二

東北支部

2024年

☆4月20日(土) 2024年度総会・講演会 (TKP 仙台西口ビジネスセンター)

講演

小笠原亜衣 (関西学院大学)

「ヘミングウェイの散文実験と近代——スタイン、ピカソ、セザンヌ絵画」

司会 大森昭生 (共愛学園前橋国際大学)

☆7月 第1回役員会 (メール審議)

☆12月7日(土) 12月例会 (TKP 仙台西口ビジネスセンター)

研究発表1

宮津多美子 (跡見学園女子大学)

「母系ユートピアの家父長制：ギルマンの『ハーランド』にみる創世神話」

研究発表2

徳永慎也 (群馬パース大学)

「『遠い声、遠い部屋』におけるケアの役割——ケアの倫理を手がかりに」

研究発表3

藤倉ひとみ (創価大学)

「*City of Night* における新たなゲイのヒーロー像」

2025年

☆3月8日(土) 第2回役員会・3月例会 (TKP 仙台西口ビジネスセンター)

シンポジウム

タイトル：「ユダヤの創造力と集合的記憶」

司会・講師：大場昌子 (日本女子大学)

講師：佐川和茂 (青山学院大学名誉教授)

講師：井上亜紗 (武蔵野大学)

講師：西貝真紀 (日本女子大学)

講師：伊達雅彦 (尚美学園大学)

☆3月31日(月) 機関誌発行『東北アメリカ文学研究』第48号

(研究論文2, 講演1, エッセイ3, 書評/映画評1)

☆4月26日(土) 2025年度総会・講演会 (TKP 仙台西口ビジネスセンター)

講演

三添篤郎 (流通経済大学)

「デジタル・ヒューマニティーズの考古学」

司会：千田元康 (流通経済大学)

東京支部

東京支部では、支部ホームページ (<http://www.tokyoals.org/>) において月例会での講演や研究発表, 分科会発表等の詳しい情報を提供しています。

☆4月例会 2024年4月13日(土) 午後2時より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス西校舎527教室

特別講演：「アメリカはどこに位置しているのか？

私はどこに立っているのか——inter-という接頭語とのおつきあい」

講師：下河辺美知子 (成蹊大学名誉教授)

司会：古井義昭 (立教大学)

★特別講演終了後、支部総会を開催

☆5月例会 2024年5月25日(土) 午後1時30分より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス西校舎522教室

研究発表：「文学のイノベーション——ヘミングウェイとクバニスモ」

講師：越川芳明 (明治大学名誉教授)

司会：中垣恒太郎 (専修大学)

分科会：

近代散文：「イーディス・ウォートンとニューヨーク映像作品——マーティン・スコセッシからノーラ・エフロンまで」
大塩真夕美 (流通経済大学)

現代散文：【ワークショップ】「計量文学研究のゆくえ——ルシアス・アデルノ・シャーマンから考える」

三添篤郎 (流通経済大学)

詩：「“Poetry and the Female Sex”——William Carlos Williams による1930年代の詩を読む」

後藤ゆり (早稲田大学・院)

演劇・表象：分科会開催無し

★分科会終了後、支部運営委員会を開催

☆6月例会 2024年6月22日(土) 午後1時30分より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス南校舎445教室

シンポジウム：「*The 1619 Project* からアメリカの変貌と文学研究を考える」

司会・講師：成田雅彦 (専修大学)

講師：佐久間みかよ (学習院女子大学)

講師：新田啓子 (立教大学)

講師：城戸光世 (広島大学)

分科会：

近代散文：シンポジウムの継続

現代散文：「James Baldwin と「スポーツ」」

佐々木優（専修大学）

詩：「世代間トラウマによる共同体構築——多民族比較詩学から見えるアメリカの風景」

古村敏明（明治学院大学）

演劇・表象：「境界の揺らぎと情動、暴力——Edward Albee の *Seascape* における他者の表象」

中西亮介（早稲田大学・院）

★分科会終了後、支部運営委員会を開催

☆臨時運営委員会 2024年8月10日（土）午後5時より

場所：東洋大学白山キャンパス6号館4階6403教室

☆9月例会 2024年9月28日（土）午後1時30分より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス南校舎445教室

研究発表：「ピーコット族の作家 William Apess と Lydia Maria Child の共振——先住民の歴史と諸権利を巡って」

講師：小澤奈美恵（立正大学）

司会：小倉いずみ（大東文化大学名誉教授）

分科会：

近代散文：「緑の文字——*The Scarlet Letter* における植物表象と父子関係」

石川志野（慶應義塾大学・院）

現代散文：「New Women as Ancient Flappers——Shaw's *Caesar and Cleopatra* in Fitzgerald's *The Beautiful and Damned*」

Mauro LO DICO（Nihon University）

詩：「パレスチナ系アメリカ詩人たちのジャーナル的視点——ネオミ・シーハブ・ナイの *The Tiny Journalist* とは誰か？」

小泉純一（日本福祉大学）

演劇・表象：分科会開催無し

★分科会終了後、支部運営委員会を開催

☆11月例会 2024年11月9日（土）午後1時30分より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス南校舎445教室

研究発表：「シルヴィア・プラスとヴァージニア・ウルフの「死」と「変身」」

講師：小川公代（上智大学）

司会：ハーン小路恭子（専修大学）

分科会：

近代散文：「信仰か偽善か、あるいは嘲笑か？——Herman Melville の *Omoo* におけるタヒチの人々の改宗と「模倣」」

篠崎優人（慶應義塾大学・院）

現代散文：分科会開催無し

詩：「詩が生まれる場所——Emily Dickinson の牧草地」

吉田 要（日本工業大学）

演劇・表象：「親を知らない子テキスト——Susan-Lori Parks の *Fucking A* と *The Scarlet Letter* のねじれた関係性」

田所朱莉（信州大学）

★分科会終了後、支部運営委員会を開催

☆12月例会 2024年12月14日（土）午後2時より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス第一校舎122教室

シンポジウム：「Lyric “I”の冒険——20世紀後半の抒情詩のゆくえ」

司会・講師：飯野友幸（上智大学）

講師：金澤淳子（東京理科大学）

講師：江田孝臣（早稲田大学名誉教授）

講師：田中裕希（法政大学）

コメンテーター：舌津智之（立教大学）

☆1月例会 2025年1月25日（土）午後1時30分より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス研究室棟 AB 会議室

研究発表：「英語詩と日本語詩のメロポエシア——比較詩的リズム論」

講師：富山英俊（明治学院大学名誉教授）

司会：小泉由美子（慶應義塾大学）

分科会：

近代散文：「ヘンリー・ジェイムズの「風景画家」（1866）における「書くこと」と「描くこと」」

垂井泰子（中央大学）

現代散文：「身ぶりのテキスト——J. D. Salinger, *Nine Stories* の戦争物語におけるナラティブ・ストラテジー」

川島広大（早稲田大学・院）

詩：「Lawrence Ferlinghetti と Allen Ginsberg の反原子力運動の詩——片桐ユズル・反戦・反核」

ヤリタミサコ（詩人）

演劇・表象：「サム・シェパードとヴィム・ヴェンダースの家族表象」

月城典子（白百合女子大学・非）

★分科会終了後、支部運営委員会を開催

☆3月例会 2025年3月22日（土）午後1時30分より

場所：慶應義塾大学三田キャンパス南校舎445教室

研究発表：「“The poor sons of bitches” ——スノーブ
ス三部作・再考」

講師：中野学而（中央大学）

司会：山本裕子（千葉大学）

分科会：

近代散文：「かすかな痕跡の同封——Herman
Melville の海上／海外表象におけるト
レーサビリティ」

田浦紘一郎（実践女子大学・非）

現代散文：「Truman Capote による事実の取捨選
択——ノンフィクション・ノヴェル *In
Cold Blood* 再考」

藤倉ひとみ（創価大学）

詩：「牧神と鳥たち——鳥が醸す Robert
Frost の詩情のあり方」

狭間敏行（静岡英和学院大学）

演劇・表象：「アメリカの 007——1960年代アメリ
カ映画におけるスパイ・フィクション
の受容と変化」

久我康介（慶應義塾大学・院）

★分科会終了後、支部運営委員会を開催

中部支部

2024年

☆6月例会

6月22日（土）中京大学（対面）ならびに Zoom を併
用するハイフレックス形式

研究発表

1. 山口 透（名古屋大学・院）／司会：山口善成
（金沢大学）

「想像力という病—*Ormond* における差異と類
似—」

2. 高橋綾子（兵庫県立大学）／司会：長畑明利（名
古屋外国語大学）

「ジェニファー・スカベトン『出口43の共和国』
汚染と詩」

3. Cristina Cheveresan（West University of Timi-
soara, Romania）／司会：本田安都子（福井大学）
“Philp Roth and (American) History: Alterna-
tives and Multilayered Plotlines.”

★例会前に運営委員会を開催。

☆9月例会

9月21日（土）中京大学（対面）ならびに Zoom を併
用するハイフレックス形式

研究発表

1. 中川祐人（金沢大学・院）／司会：千葉洋平（中
京大学）

“The Leader Created by Genetic Engineering in
Octavia E. Butler’s *Fledgling*: What Would
Shori be Required as the Leader?”

2. 全国大会シンポジウムのリハーサルを兼ねた発
表

司会・発表：柳沢秀郎（名城大学）

発表：久保拓也（金沢大学）

梅垣昌子（名古屋外国語大学）

中村 翠（京都市芸術大学）

★例会終了後に運営委員会を開催。

☆12月ワークショップ（読書会）

12月7日（土）中京大学（対面）ならびに Zoom を
併用するハイフレックス形式

テキスト：Leila Mottley, *Nightcrawling*（2022）

講師：藤井 爽（近畿大学）

講師：菅井大地（愛知学院大学）

講師：青木耕平（愛知県立大学）

講師：早川真理子（愛知学院大学）

★終了後、運営委員会を開催。

2025年

☆2月例会

2月22日（土）松山大学（対面）ならびに Zoom を併用するハイフレックス形式

研究発表

1. 秋田万里子（富山大学）／司会：青木耕平（愛知県立大学）
「喪失／空白の＜翻訳＞—Nicole Krauss の *The History of Love*」
2. 辻祥子（松山大学）／司会：森有礼（中京大学）
「メルヴィルの『ピエール』（1852）における家庭小説批判—同時代作家間の住まいの描写の比較を手掛かりに」

★例会前に役員会を開催。

☆第41回支部大会

4月26日（土）中京大学（対面）ならびに Zoom を併用するハイフレックス形式

研究発表

1. 小川恭佑（愛知医科大学）／司会：竹野富美子（東海学園大学）
「揺らぐ視点と欺く語り—メルヴィルの『ベニート・セレーノ』を読む」
2. 水口陽子（大阪大谷大学）／司会：梅垣昌子（名古屋外国語大学）
「Edith Wharton, *The House of Mirth* における労働とエコノミー」

シンポジウム

「文学における資本主義と消費」

司会・講師：社河内友里（豊橋技術科学大学）

講師：高橋綾子（兵庫県立大学）

講師：本田安都子（福井大学）

講師：大木龍之介（相山女学園大学）

特別講演

講師：石原剛（東京大学）／司会：森有礼（中京大学）

「マーク・トウェインと決闘—ネヴァダ逃亡の真実を探る」

★研究発表後に総会を開催。

関西支部

2024年

☆『関西アメリカ文学』（第62号）第2回編集委員会

7月14日（日）

Zoom にてオンライン開催

☆7月例会 7月20日（土）

会場 神戸大学

ミニシンポジウム

「北米環境文学におけるアントロポセンを巡る想像力——アウトサイダーの視点から」

司会 高橋綾子

講師 岸野英美（近畿大学）

「Rita Wong 作品にみるカナダ先住民への眼差し——資源開発との関わりの中で」

講師 平田美千子（近畿大学）

「アウトサイダーの語る大量死の悪夢——ヴォネガットの描く人類が地球に残す負の痕跡」

講師 高橋綾子（兵庫県立大学）

「Camille T. Dungy と *Black Nature*——アフリカ系アメリカ詩人のネイチャー・ライティング」

講師 林千恵子（京都工芸繊維大学）

「『人新世』と文学研究」

★例会前に運営委員会を開催

☆臨時運営委員会 8月23日（金）

Zoom にてオンライン開催

☆10月例会 10月5日（土）

Zoom にてオンライン開催

研究発表

1. 「Yiyun Li, “The Princess of Nebraska” におけるマイノリティ表象とオルタナティヴな家族像」
発表者 井上明紀（神戸大学・院）
司 会 藤井 爽（近畿大学）

2. 「フォークナーの「ミシシッピ」と冷戦期の民間文化外交」

発表者 山本裕子（千葉大学）

司 会 相田洋明（大阪公立大学）

★例会前に運営委員会を開催

☆11月例会 11月2日（土）

会場 京都ノートルダム女子大学

研究発表

1. 「Domesticity as an Ideology in Ruth Ozeki's *My Year of Meats*」
発表者 李 一旻（Li Yimin）（神戸大学・院）

司 会 浅井 千晶 (千里金蘭大学)

2. 「“Twin Relics of Barbarism”と先住民扮装——Mark Twain, *Roughing It* におけるモルモン教徒表象とその自伝的含意」

発表者 杉村篤志 (山梨英和大学)

司 会 辻 和彦 (近畿大学)

★例会前に運営委員会を開催

☆支部大会 12月7日 (土)

会場 関西大学

フォーラム「マーガレット・アトウッドが描く人間、動物、環境」

司会・講師：出口菜摘 (京都府立大学)

「アトウッドの詩における動物たち——洪水のあとを語る言葉」

講師 佐藤アヤ子 (明治学院大学・名誉教授)

「ディストピアの向こう側」

講師 高村峰生 (関西学院大学)

「『マッドアダム』における石油と宗教共同体」

講師 矢倉喬士 (大阪大学)

「ここでは自爆テロは起こらない——マーガレット・アトウッドの『エンジェル・キャットバード』におけるカナダ的例外主義と準-当事者性について」

☆臨時運営委員会 12月22日 (日)

Zoomにてオンライン開催

2025年

☆1月例会 1月11日 (土)

Zoomにてオンライン開催

若手シンポジウム「現代アメリカ文学における「ポスト (以後)」」

司会 近藤佑樹 (大阪大学)

講師 杉本はなな (立命館大学・院)

「思わせぶりの語り——Toni Morrison の *Jazz* を読む」

講師 小谷真由 (神戸大学・院)

「三世としての日系アメリカ人の集合的記憶の物語化——Karen Tei Yamashita “KonMarimasu”を中心に」

講師 王 立珺 (大阪大学・院)

「アメリカン・アポカリプスにおけるシャングリラ——現代アメリカ文学と映画におけるチベット表象を手がかりに」

講師 近藤佑樹 (大阪大学)

「文明崩壊後のターミナル——Emily St. John Mandel の *Station Eleven* における生存とモビリティ」

★例会前に臨時総会を開催

☆『関西アメリカ文学』(第62号) 第3回編集委員会

1月26日 (日)

Zoomにてオンライン開催

☆新評議員会 2月1日 (土)

Zoomにてオンライン開催

☆新旧役員会 3月8日 (土)

Zoomにてオンライン開催

☆運営委員会 4月6日 (日)

Zoomにてオンライン開催

☆支部総会 5月10日 (土)

会場 関西学院大学

講演

講師 中村仁美 (神戸市外国語大学名誉教授)

演題 「Girls and Modernity——*The Awkward Age* をめぐって」

司会 三杉圭子 (神戸女学院大学教授)

★総会前に運営委員会を開催

☆『関西アメリカ文学』(第63号) 第1回編集委員会

5月17日 (土)

Zoomにてオンライン開催

☆6月例会 6月14日 (土)

会場 大阪大学豊中キャンパス

研究発表

1. 「Paul Auster の「晩年のスタイル」をめぐる一考——*Baumgartner* (2023) を導きの糸に」

発表者 中村瑞樹 (大阪大学)

司 会 平川 和 (神戸大学)

2. 「ベトナム系アメリカ作家2世代作家におけるアメリカ文学の伝統的ジャンルへの接近」

発表者 桑原拓也 (奈良県立大学)

司 会 渡邊真理香 (中京大学)

3. 「*The Marne* にみるフォードの影——イーディス・ウォートンと第一次世界大戦」

発表者 吉野成美 (近畿大学)

司 会 石塚則子 (同志社大学)

★例会前に運営委員会を開催

中・四国支部

2024年

☆『中・四国アメリカ文学会会報』 第63号発行（6月1日）

☆『中・四国アメリカ文学研究』 第60号発行（6月30日）

☆中・四国アメリカ文学会評議委員会

開催日：6月8日（土）

会 場：就実大学 S館

☆中・四国アメリカ文学会第52回大会

開催日：2024年6月8日（土）・9日（日）

会 場：就実大学 S101大講義室

開会の辞 会 長：大地真介（広島大学）

6月8日（土）

研究発表

1. Steinbeck's God Conception Based on *Cambiare il Cuore* by Carlo Maria Martini: *To a God Unknown*—People Seeking God and God Seeking People

司会 山内 圭（新見公立大学）

発表 香川理恵（ノートルダム清心女子大学（院））

2. John Steinbeck の *Cup of Gold* を読む——ケルト文化の観点から

発表 酒井康宏（米子工業高等専門学校（名））

3. 読書するメルヴィルのキャラクターたち——読書行為と世俗化

司会 辻 祥子（松山大学）

発表 藤本幸伸（山口大学）

特別講演

講師 西谷拓哉（神戸大学）

演題 エイハブの描写——感情の基底に横わたるもの

司会 城戸光世（広島大学）

6月9日（日）

シンポジウム

詩のことば——力・語り・遊び・ミクロの世界

司会 谷岡知美（広島工業大学）

1. ことばのミクロの世界——アレン・ギンズバーグの「吠える」(“Howl,” 1957) をとおして

発題 谷岡知美

2. Fred Wah の詩におけるハイフネーションの力

発題 風早由佳（岡山県立大学）

3. Louise Glück と Gary Snyder の詩における人間以外の語り手

発題 塩田 弘（広島修道大学）

4. 韻数文解——あそぶことば

発題 重迫隆司（福山大学）

総会 議長 会長 大地真介

閉会式 閉会の辞 副会長 城戸光世

☆Newsletter 第105号発行（11月1日）

☆支部運営委員会

開催日：12月7日（土）場所：広島経済大学 立町キャンパス

☆冬季大会

開催日：12月7日（土）場所：広島経済大学 立町キャンパス141教室

研究発表

1. ドン・デリーロ『墜ちてゆく男』における象徴的風景の変容について——トラウマと情動の視座より

司会 的場いづみ（広島大学）

発表 ジェイムズ常マシュー（東京大学（院））

2. ジョン・アップダイク『音楽教室』における宗教性とフーガ形式の効果について

司会 塩田 弘（広島修道大学）

発表 ウィリアムズ厚子（香川大学）

3. 女性たちの座談会——マーガレット・フラーによるスコットランド道徳哲学の実践

司会 城戸光世（広島大学）

発表 大野瀬津子（九州工業大学）

閉会の辞 大地真介（広島大学）

【令和7年】（2025年）

☆第1回支部編集委員会

日時：2025年2月6日（木）10:30～

場所：オンライン

出席者：増崎 恒、戸田 慧、外山健二、藤吉知美

☆第2回支部編集委員会

日時：2025年3月5日（水）10:00～

場所：オンライン

出席者：増崎 恒、戸田 慧、外山健二、藤吉知美

九州支部

2024年

☆7月例会

7月28日（日）

場所：アクロス福岡

特別講演

巽 孝之（慶應義塾大学名誉教授／慶應義塾ニューヨーク学院長）

「批評理論と文学史の交わるところ」

シンポジウム「アメリカ文学と批評理論のこれから」

司会・講師：渡邊真理香（北九州市立大学）

「インターセクショナルリティから考えるアジア系アメリカ文学——*Light from Uncommon Stars* における多層的な生」

講師：岡本太助（大阪大学）

「現代の悲劇はクリシェとなり果てたか——*The Goat Or, Who Is Sylvia?* から読み直すパロディと間テクスト性」

講師：鈴木章能（長崎大学）

「日本人がアメリカ文学を読み、語るということ——ポストコロニアリズム・世界文学を経由したグローバル・アメリカ」

☆日本英文学会第77回九州支部大会（アメリカ文学部門）

10月26日（土）—27日（日）

場所：福岡大学七隈キャンパス

招待発表

発表者：松田卓也（九州工業大学）

「トラウマからの脱出——コルソン・ホワイトヘッド『地下鉄道』のノマド的解釈——」

司会：竹内勝徳（鹿児島大学）

研究発表1

発表者：山口沙瑛（九州大学大学院）

「おしゃべりな「食」——*Paradise* の「食」の表象にみる抑圧と解放」

司会：松下紗耶（鹿児島女子短期大学）

研究発表2

発表者：吉田希依（熊本県立大学）

「“He Ought to Stay Away from Bitches”——*Light in August* における「黒さ」と「女性」の罪」

司会：永尾 悟（熊本大学）

シンポジウム「ハーマン・メルヴィルと伝記研究」

司会・講師：鈴木一生（九州工業大学）

講師：小椋道晃（明治学院大学）

講師：田ノ口正悟（早稲田大学）

講師：竹内勝徳（鹿児島大学）

研究発表3

発表者：Liu Jing（福岡大学大学院）

「Analysis of E. B. White's Children's Books」

司会：鈴木章能（長崎大学）

研究発表4

発表者：Liu Hui（福岡大学大学院）

「The Role of Native American Mythology in Children's Books of Louise Erdrich」

司会：渡邊真理香（北九州市立大学）

☆12月例会

12月7日（土）

場所：九州工業大学戸畑キャンパス 百周年中村記念館

研究発表

発表者：矢野清一

「『風と共に去りぬ』と日本文化——東洋の視点から見た女性性に内在する強かさについて」

司会：竹内勝徳（鹿児島大学）

シンポジウム「国家的ナラティブに反抗する作家たち」

司会・コメンテーター：江頭理江（福岡教育大学）

講師：川村真央（福岡大学）

講師：森田 司（九州大学大学院）

講師：毛利優花（福岡大学）

2025年

☆役員会

3月15日（土）オンライン会議

☆九州アメリカ文学会第70回大会

5月10日（土）

場所：長崎大学 文教キャンパス

研究発表1

発表者：大島由起子（福岡大学）

「「森の息子」たちの脆弱さとレジリエンス——Frederick Douglass と William Apess」

司会：長岡真吾（福岡女子大学）

研究発表2

発表者：志水智子（九州産業大学）

「二人のオデュッセウスの帰還——*Albuquerque* における Anaya の試み」

司会：鈴木章能（長崎大学）

映画上映

『女の叫び』（*The Lonedale Operator*, 1911）

研究発表3

発表者：Greg Bevan（福岡大学）

「Artistic Vision and Madness in Robert Stone's

Children of Light]

司会：中村嘉雄（九州大学）

特別講演

西谷拓哉（神戸大学）

「作中挿話と両義性——メルヴィル、シェイクスピア、そしてセルバンテス——」

司会：竹内勝徳（鹿児島大学）

九州アメリカ文学賞授賞式

（佳作）山口沙瑛（九州大学大学院）

「Reading Eating Disorders: Exclusiveness and Transgressions in Toni Morrison's *Paradise*」

総会

5月11日（日）

場所：グラバー園 旧スチール記念学校

シンポジウム「Southernization of America? ——New Southern Studies から読み解くアメリカ南部文化——」

司会・講師：樋渡真理子（福岡大学）

講師：早瀬博範（宮崎国際大学）

講師：江頭理江（福岡教育大学）